



米国内に開発拠点を移して4年  
足らずで、磁気浮上型左心補  
助人工心臓の臨床試験(治験)  
を欧州で開始した。

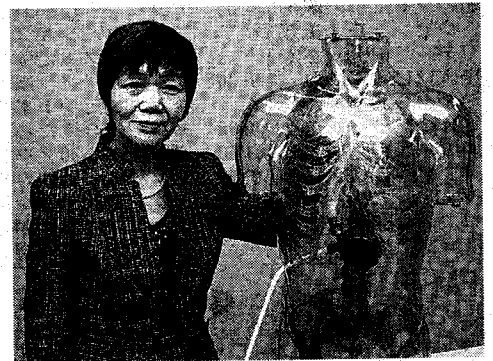
欧州で治験を始めるにあたって  
は、現地の病院に通いつめました。  
「君はヨーロッパに住んでいるの  
か」と言われたほどです。

病院に「用聞きに行きなさい」  
と、社員には常に言っています。

開発責任者であり医師である私は  
医師のもとに、エンジニアは医療  
コーディネーターに、営業は病院  
経営者に、それぞれ足を運び信頼  
関係を築くようにしています。

治験第1号の手術は2004年  
1月にドイツ・バドューンハウゼ  
ンの病院で行われ、ドイツ人医師

とともに私も手術室に入りまし  
た。実際に手を施さないまでも、  
その場で疑問に答えるためです。



日本では治験中、欧州ではすでに  
発売中の補助人工心臓の模型と

### 欧州で販売承認、医師との信頼関係が原動力

### 日米でも治験開始、世界展開へ人脈生かす

### 「万能細胞で心臓」が夢、使命感いつまでも

ときは、社員全員で見送り  
ました。

欧州に続き、日本、米  
国でも治験を開始。野  
尻さんは最初から世界  
展開を見据えてきた。

当時欧州では、新しい医  
療機器を導入しやすい環境  
でした。そこでまず欧州で  
治験を始めましたが、最初  
から最も厳しい米国での治  
験を見据えていました。

あらかじめ、米食品医薬

た。日本でも欧州のデータが認め  
られ、治験数に考慮されました。

日本の10倍の市場規模といわれ  
るアメリカが、今後ビジネスの主  
戦場となります。現在、補助人工  
心臓で第3世代と呼ばれる「磁気  
浮上型遠心ポンプ」を売り出して  
いるのは世界でもテルモハート社  
のみ。しかし、その前の第2世代  
ではソラテック社という米国企業  
が米国市場の8割を握っており、  
最大のライバルです。そこで、わ  
が社の経営もアメリカでのビジネ

考えています。

より小型軽量の次世代機の開  
発にも乗り出した。高い目標  
に挑戦したことで、テルモに  
は思わぬ副産物も生まれた。

補助人工心臓を開発するなか  
で、医療ソフトウェアやチタン加  
工・融着技術などさまざまな派生  
技術の種が生まれ、次の研究開発  
につながっています。アメリカで  
の商品開発と臨床開発の手法を学  
べたことも、大きな財産です。

究極の夢は、万能細胞(iPS  
細胞)を使って、自分の細胞で自  
分の心臓を作れるようにすること  
です。10年後には自分の細胞で心  
臓の悪いところを修復する。さら  
に20年後には心臓に疾患を抱えて  
も、万能細胞から作った心臓を埋  
め込めばいい、そんな時代を迎え  
るのではないのでしょうか。

人生最後まで仕事をしていた  
い、いま14歳の娘が仕事をするよ  
うになっても現役でアドバイスを  
したいと思っています。というの  
も、私も父親からずいぶんと教え  
られたからです。あるとき、庭い  
じりをしていた父に進路を相談し  
たところ「仕事には使命感という  
ものが大切だ」とひと言。今でも  
時折、何か忘れていないか自分に  
問いかけます。「使命感をもって  
仕事をしているか」と。

(聞き手は編集委員 野村浩子)

今回は漫画家、谷口ジローさん

# 患者のためあきらめない

⑤

この6月には、本社テルモでも  
上席執行役員に加えCMOに就任  
しました。テルモとしてはCMO  
は初めての職責。世界各国の医学  
人脈を生かして、会社全体の研究  
および臨床開発をみていきたいと